



福岡県立三池高等学校

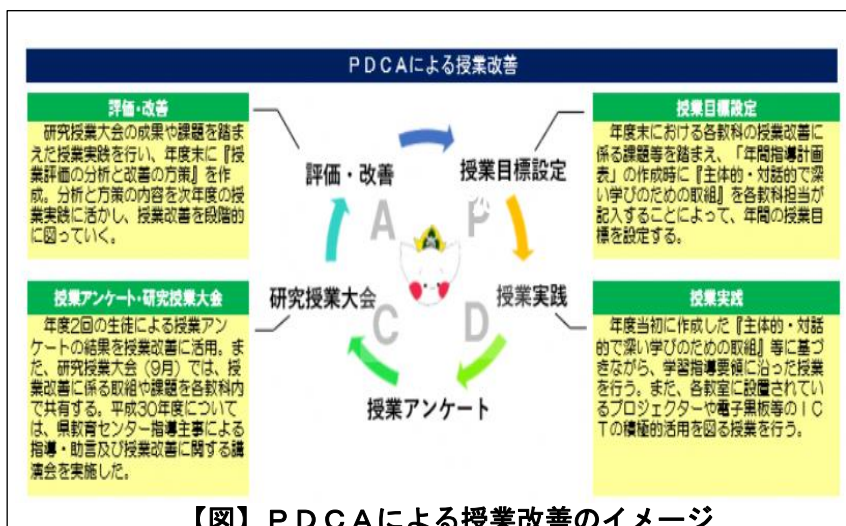
生徒も職員も自然と同じ目標を意識し、学びに向かう学校文化

福岡県立三池高等学校は平成29年度に創立100周年を迎え、3万4千人を超える卒業生を有する歴史と伝統のある普通科高等学校です。「進取・至誠・自治」を校訓とし、校是「逞しく時代を拓く人間たれ」の精神を涵養することで「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を図っています。ひとたび三池高校の校門をくぐると、生徒は主体性を高めて三高生らしくなり、職員も同校の一員として、自ずと同じ目標を意識し、互いに学び合うようになると言われます。この素晴らしい学校文化の要因を探るべく、「新たな学び」特命チームは同校取材しました。

1 授業改善の推進体制と環境整備

(1) PDCAによる授業改善：昨年度の反省を今年度の計画に確実に反映

昨年（H30）9月、各教科内で事前検討を入念に行い（P）、「研究授業大会」を実施し（D）、そこで明らかになった成果と課題を、年度末に「授業評価の分析と改善の方策」としてまとめ（C）、今年度、各教科等の「年間指導計画表」（A）させました。具体的には、「主体的・対話的で深い学びの推進」や「ICTを活用した授業実践」等に関して、全教員が年間指導計画の中に明記しました。そうすることで、今年度は、全職員で授業改善の方向性を意識して実践できています。



【図】PDCAによる授業改善のイメージ

さらに、授業改善の方向性は共有するものの、具体的な実践方法については、各教科、各教員の特性を尊重し委ねられているため、それぞれが個性豊かで、魅力あふれる授業実践を行っています。

(2) ICT環境の整備と積極的な活用

学年進行で整備してきた黒板直接投影プロジェクターを、一昨年度全教室に設置することができました。また、教室のプロジェクターに直接つなぐことができるUSBフラッシュメモリを購入し全教員に配付したことも、ICTの積極的な活用に繋がっています。

ICTの校内研修に関しては、年1回、夏に教科ごとに実施しています。また、プロジェクターが全教室に設置されたことで、毎日の授業で利用できるため、教員の日常会話の中でICTの活用方法が話題にあがっており、同校の教員にとって職員室が、ICTを活用した授業改善に向けた語り合いの場になっています。

2 具体的な授業実践

(1) 2年「古典B」、3年「現代文B」におけるICTの活用

2年「古典B」では、黒板直接投影のプロジェクターにより本文を黒板に掲示しながら、電子黒板で本文の時代背景となる摂関政治や藤原道長に関する説明動画を活用していました。

【写真左】生徒は、視覚と聴覚で平安時代に引き込まれながら、本文を味わうことができ、内容理解の促進につながりました。

また、3年「現代文B」では、プロジェクターで本文を黒板に掲示しながら、本物のレモンを提示し、生徒に触らせるという授業展開をしていました。【写真右】どちらの授業も、ICTを効果的に活用した教員の説明により、筆者が言葉を紡いだ世界観の中へと生徒を誘（いざな）っていました。



(2) 2年「コミュニケーション英語Ⅱ」におけるペアワークの工夫
英語科では、音読の練習、スピーキング（会話、やりとり、発表等）の練習、内容確認のためのQ&A等のためよくペアワークを行います。この時間は、通常の活動に加え、副教材の単語集の例文を一方が読み、一方が聞く活動を行っていました。例文を聞くことに集中することで、生徒は、自身が目で見たり、口に出したりする以外の方法も使い、協働的に語彙の習得を促進させることができていました。

(3) 2年「保健」におけるマイクロディベート

前時までの学習を踏まえ「出生前診断に基づく人工妊娠中絶の可否」「代理出産の可否」「育児休暇取得の義務化の可否」について、3人グループで肯定側・否定側・審判に分かれてマイクロディベートを実施していました。肯定側・否定側、各2分の主張の後、フリートークの時間を設け、形式にこだわらず議論を深めました。本時の目標は、勝敗を決めることではなく、学習内容を深め、自分の考えを持ち表現することでしたので、判定基準は極めてシンプルに「話し方」「説得力」「論理性」に絞り、自分の考えを話すことや相手の考えを聞くことに集中できるよう工夫していました。



同校は、総合的な学習の時間を1，2年次で3単位実施する等、教育課程編成の工夫をしており、その中で、本格的なディベートにも挑戦しています。様々な学習展開により、確かな学力と校是にある「逞しく時代を拓く人間」の育成をしています。

3 授業改善を推進する土壌

職員室内で学び合う文化に寄与しているものの一つに、職員室内の座席配置があります。多くの学校では、担任団がクラス順で並んでいる配置ですが、同校では学年の教科担当が集まって座るよう配置し、教科指導等についてすぐに相談や連携を図れるよう工夫しています。

また、総合的な学習の時間の進路学習と、特別活動の修学旅行に係る学習を関連付ける等、教科等横断的な工夫もなされています。

4 今後の方向性

同校は、日常の教育活動に少しずつ意識して工夫を加えることで、大きな変化や成果を生み出しています。「わかる・おもしろい・ちからがつく」という観点からの授業改善に向けた意識が高いため、電子黒板やタブレット等の更なる整備により、教員のICT活用力の熟達が加速的に進み、授業改善の更なる好循環が期待されます。